

第4章 明日を担い未来を拓く人づくり

第5編

施策の展開

人づくりは、より良い未来を拓くための基本であり、県民一人ひとりが生涯を通じて心豊かに生きがいのある暮らしを送り、また、将来にわたり豊かで活力のある地域を築くための原動力となります。

このため、教育を大切にしてきた長野県の歴史的・文化的風土を生かしながら、未来を担う子どもたちに確かな学力、豊かな人間性・社会性や生きる力を育み、一人ひとりの持つ個性や能力を一層伸ばすための教育を充実するとともに、食育などを通じて心身の健康増進を図るなど、学校、家庭、地域が連携して、たくましい青少年の健全な育成に取り組みます。

また、県民がゆとりや充実感にあふれ、うるおいのある生活を送ることができるよう、すべての世代の人々の学ぶ意欲に幅広く応えられる生涯学習の環境づくりや、文化芸術・スポーツの振興を図ります。



シルクロードの女

池田満寿夫 (1985年)

第4章

明日を担い未来を拓く人づくり

確かな学力と豊かな人間性・社会性を育む学校教育の充実

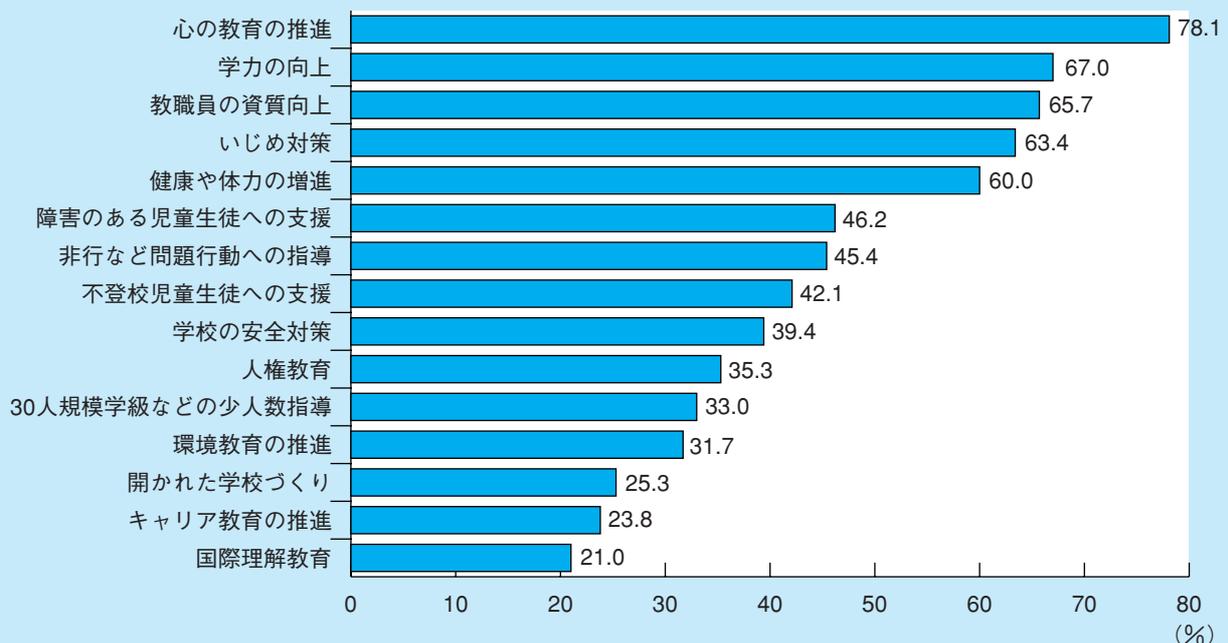
施策のねらい

一人ひとりの子どもたちが新しい時代を主体的に切り拓いていく力を育むため、学校・家庭・地域・関係機関との連携を図り、社会全体で、確かな学力と豊かな人間性・社会性を育む教育を推進します。

現状と課題

- 子どもたちの学力向上に向けて、一人ひとりに応じた学習指導を行い、確かな学力が身に付く日々の授業を実践することが必要です。
- 生徒数の減少に伴い、地域の合意に基づいた高校再編や魅力ある高校づくりを行う必要があります。
- 特別支援教育の対象になる児童生徒の増加や障害の重度重複化・多様化に合わせた教育環境を整備・確立する必要があります。
- 人間性や社会性を育む上で重要な体験活動の機会の減少、家庭や地域の教育力の低下、子どもの規範意識の希薄化が指摘されています。
- 社会環境の変化とともに、子どもたちの体力・運動能力の低下や食生活の乱れが顕著になり、食に起因する健康問題が引き起こされています。

学校教育で優先的に取り組むべきこと



資料：広報課「県政世論調査」(平成19年度)

施策の展開

■学ぶ「ちから」の育成（☞p.190）

子どもたちの自ら学び・自ら考える力の育成や基礎基本の確実な定着など、学力の向上を図るとともに、時代の変化や多様化する地域のニーズに応じた教育やキャリア教育を推進します。また、高校改革などによる魅力と活力ある高等学校づくり、私学教育・高等教育の振興を図ります。

- 基礎基本の定着と学力向上の推進
- 時代の変化に対応した教育の推進
- 地域を担う人材の育成
- 魅力ある高等学校づくり（高校改革の推進）
- 私学教育・高等教育の振興

■豊かな心と健やかな体を育む教育の推進（☞p.190）

不登校やいじめなどの悩みや不安を抱える子どもたちに対し、適切な相談・支援を行うとともに、道徳教育や人権教育の推進により、豊かな心を育成します。

また、児童生徒の健康の保持増進、望ましい食習慣の習得を図るとともに、体力・運動能力を向上させるための取組を行います。

- 悩みを抱える子どもへの支援
- 道徳教育・人権教育の推進
- 児童生徒の健康の保持増進
- 食育*の推進
- 体力向上の推進

■障害や外国籍など多様な教育的ニーズのある児童生徒への支援（☞p.191）

障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けた適切な指導と支援を行うとともに、一人ひとりの教育的ニーズに柔軟に対応するための体制づくりに取り組み、特別支援教育を推進します。

また、外国籍児童生徒や院内学級のない病院に長期入院している児童生徒など、多様な教育的ニーズのある児童生徒への学習支援などを行います。

- 特別支援教育推進体制の整備
- 障害のある児童生徒の社会参加力の向上
- 外国籍児童生徒などへの学習支援

■子ども・家庭・地域・社会から信頼される学校づくり（☞p.191）

優秀な教員の確保や教員評価、多様化する教育課題に対応した教員研修を通じて、教員の資質向上を図るとともに、開かれた学校づくりや子どもたちが安全で安心して学べる環境整備など、学校、家庭、地域等と役割分担をしながら相互の連携を図ることにより信頼される学校づくりを進めます。

- 教員の資質向上と教育体制の整備
- 開かれた学校づくりの推進
- 子どもの安全確保体制整備
- 教育環境の充実・整備

達成目標

指標種別	指標名		5年前 (平成14年度)	現状	目標 (平成24年度)	備考
県活動	基礎的・基本的な内容の定着度	小学生	71.5% (H12年度)	66.7% (H18年度)	72.0%	小数と整数の加減を理解する児童の割合(小5)(学力実態調査) [全国の現状を参考に設定]
		中学生	52.5% (H12年度)	47.1% (H18年度)	53.0%	$y = ax$ のグラフをかくなど、式とグラフの関係を理解できる生徒の割合(中2)(学力実態調査) [全国の現状を参考に設定]
県活動	4年制大学進学率(県内公立高等学校)		29.3% (H13年度)	36.9% (H18年度)	40.0%	県内公立高等学校の4年制大学進学率 [全国の現状を参考に設定]
県活動	学校に対する満足度(小・中・高)		89.1%	91.5% (H18年度)	93.0%	喜んで学校に通う児童・生徒の割合(児童生徒の生活・学習意識実態調査)
県活動	3日以上職場体験実施校数(中学校)		—	60校 (H18年度)	120校	3日以上職場体験を行う中学校数 ※H18年度の中学校数:193校
県活動	高校生の職場体験者率(県立高等学校)		—	9.9% (H18年度)	12.0%	職場体験を行う生徒(県立高等学校)の割合 ※H18年度の県立高校生徒数:51,308人
県活動	計画的に食育を進めている小・中学校の割合		—	—	100%	学校全体の取組として計画的に食育を進めている小・中学校の割合
県民	体力運動能力テストの結果で全国平均を上回った項目数の割合(小・中・高)		37.3% (H13年度)	25.0% (H18年度)	38.0%	(体力・運動能力調査) ※H18年度の調査項目数:9種目・204項目
県民	特別支援学校高等部の卒業生の就職者数		87人 (H13年度)	82人 (H18年度)	120人	特別支援学校高等部卒業生の就職者数

【用語解説】

*食育:様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。



道徳の授業



給食指導



子ども向け運動プログラム



職場体験学習

生涯を通じた学びや育ちの環境づくり

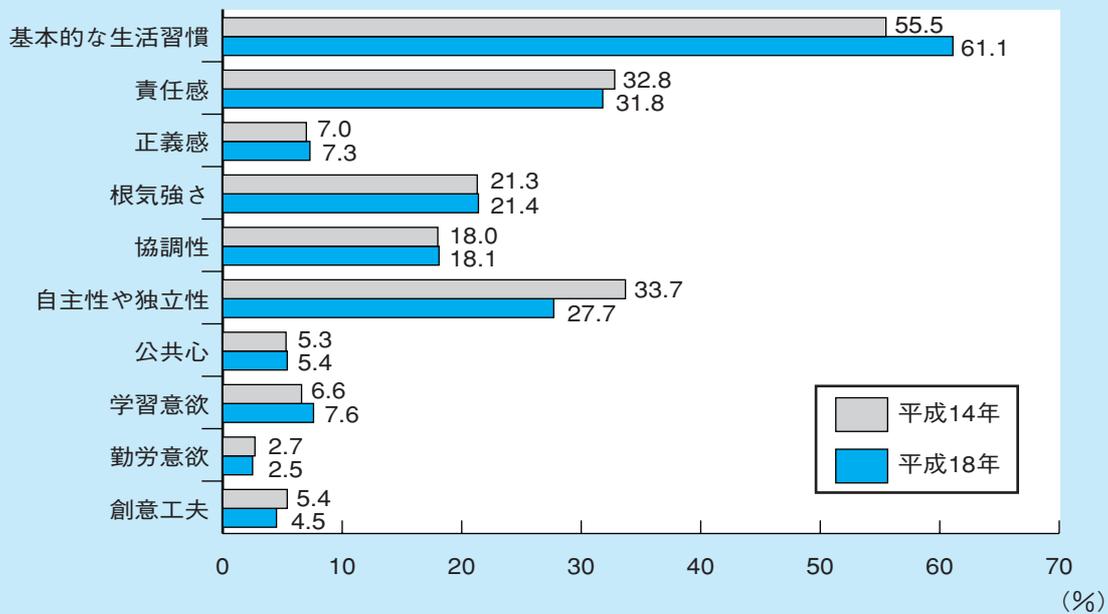
施策のねらい

生涯を通じた学びや育ちを支援するため、多様な学習機会に親しむことができる環境づくり、幼児期の子どもたちの健やかな育成と家庭・地域の教育力の向上、心豊かなたくましい青少年の育成を図ります。

現状と課題

- 団塊の世代の人々が定年退職の時期を迎えることから、余暇を活用した生涯学習活動や地域社会への貢献に意欲を持つ県民の増加が見込まれます。
- 子どもたちの育成に関しては、人間関係の希薄化、テレビゲーム等の影響による体験活動の欠如、家庭や地域における教育力の低下が指摘されています。
- インターネット等の普及により、違法・有害情報の青少年への悪影響が懸念されています。

家庭教育で大切にしていること（保護者の意識 小・中・高校）



資料：教育委員会「児童生徒の生活・学習意識実態調査」

施策の展開

生涯学習の振興（☞p.192）

県民が、自らのニーズにあった生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習活動に必要な情報提供や指導者養成を推進するとともに、幅広い年代を対象とした様々な分野における学習機会の充実を図ります。

- 生涯学習の基盤づくり
- 多様な学習機会の充実

■家庭・地域の教育力の向上 (☞p.193)

幼児期の子どもたちの健やかな育ちと家庭の教育力の向上を図るとともに、地域における子どもの安全・安心な居場所づくりを進めます。また、地域全体で学校教育を支援する体制づくりなどにより、地域の教育力の向上を図ります。

- 幼児教育と家庭教育の充実
- 放課後における子どもの居場所づくりの推進
- 地域の教育力の向上

■青少年の健全育成 (☞p.193)

家庭・学校・地域が一体となり、創造性、社会性、人間性豊かな青少年の育成に取り組むとともに、健全な社会環境づくりを推進します。

- 心豊かなたくましい青少年の育成
- 健全な社会環境づくりの推進

達成目標

指標種別	指標名	5年前 (平成14年度)	現状	目標 (平成24年度)	備考
県活動	生涯学習情報提供システム情報登録件数(年間)	13,301件 (H14年度末)	12,307件 (H18年度末)	13,500件	生涯学習情報提供システム「信州らんらんネット」を通じて県民に提供されている情報の登録件数
県民	放課後子ども教室登録児童数	—	2,378人 (H19年度)	5,800人	放課後子ども教室に登録されている児童数 [実施希望調査をもとに設定]



ふれあい自然体験キャンプ



生活を彩る文化芸術の振興

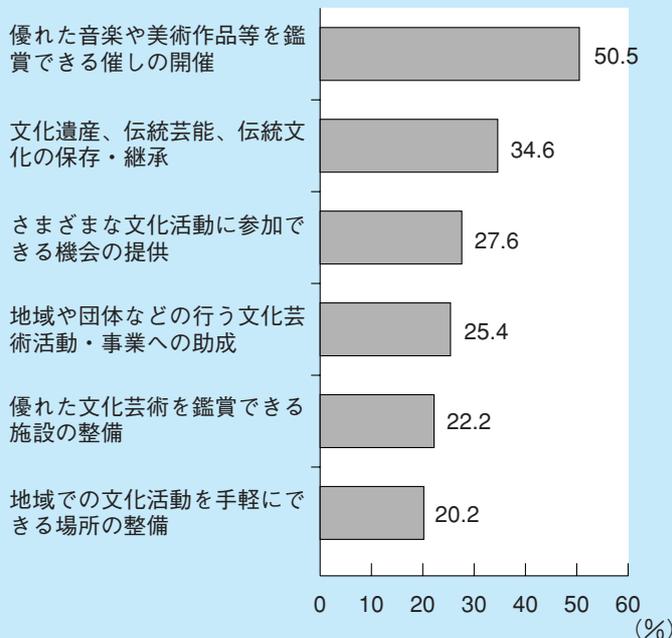
施策のねらい

うるおいのある心豊かな暮らしの実現をめざし、楽しさや感動、安らぎなどをもたらす文化芸術の振興、地域の文化的・歴史的資産の確実な継承を図ります。

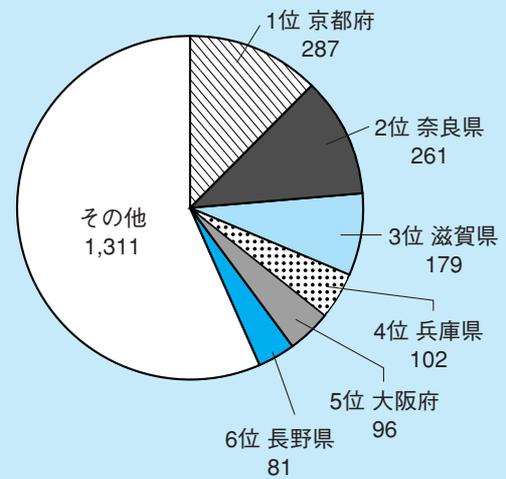
現状と課題

- うるおいのある生活や心の豊かさを求めて、文化芸術への関心が高くなっています。このため、優れた美術、音楽、演劇などの鑑賞機会の充実や、国内外での文化交流、文化芸術の担い手育成など、文化芸術活動を振興する必要があります。
- 豊かな自然環境や歴史などを背景に各地域に豊かな文化が育まれ、数多くの伝統的な地域文化や文化財が残されており、県民共有の財産であるこれらを保護し、継承していく必要があります。
- 地域の歴史・伝統・文化を、地域の文化創造や魅力づくりに生かすとともに、地域資源・観光資源として活用していくことが期待されています。

文化芸術振興への要望



国指定・登録文化財の全国順位 (建造物：国宝・重要文化財)



資料：文化庁「国宝・重要文化財等 都道府県別指定件数一覧」(平成19年11月現在)

施策の展開

文化芸術活動の推進 (p.194)

県の文化芸術施策の方向性を明らかにするとともに、優れた文化芸術の鑑賞機会と県民の創作活動や発表の場を広く提供し、県民の文化芸術活動への幅広い参加と質の高い文化芸術の創造を促進します。

- 創作発表活動・鑑賞機会の充実
- 文化芸術を担う人材の育成
- 国際的文化交流の推進

■文化財の保護・継承と活用 (p.194)

県民共有の身近な財産である文化財の保護・継承を推進し、文化財保護意識の普及と地域資源・観光資源としての活用の促進を図ります。

- 身近な文化財への関心・愛着と保護意識の高揚
- 「地域の魅力づくり」を支える文化財の保護・継承

達成目標

指標種別	指標名	5年前 (平成14年度)	現状	目標 (平成24年度)	備考
県活動	県民芸術祭延べ参加者数	1,088,691人 (H9～13年度累計)	1,107,905人 (H14～18年度累計)	1,108,000人 (H20～24年度累計)	県民芸術祭の発表、鑑賞者等の延べ参加者数
県活動	県立文化施設の利用者数	6,473,849人 (H9～13年度累計)	6,322,249人 (H14～18年度累計)	6,323,000人 (H20～24年度累計)	3文化会館、2創造館、信濃美術館、歴史館の利用者数
県活動	国・県指定等文化財の件数	754件 (H13年度末)	1,027件 (H18年度末)	1,100件	国又は県が指定・登録した文化財件数の累計



重要文化財 (旧松本高等学校本館)



県民芸術祭



地域で継承されている伝統芸能 (大鹿歌舞伎)

豊かなスポーツライフの実現

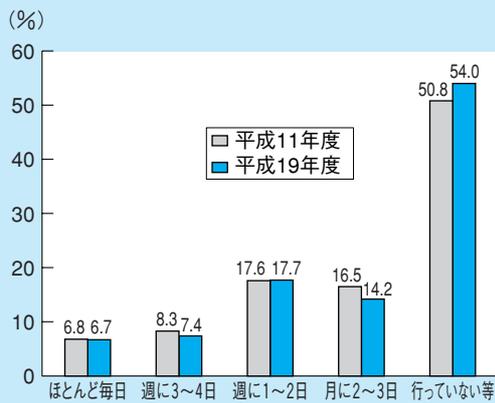
施策のねらい

県民一人ひとりが生涯にわたり、幅広くスポーツと関わりを持ちながら生活の中に積極的に取り入れ、明るく豊かで活力ある生活を送ることができるよう、生涯スポーツや競技スポーツの振興を図ります。

現状と課題

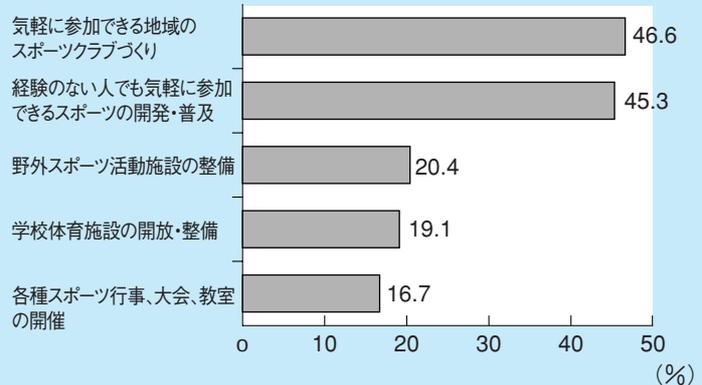
- 平成19年度県政世論調査によると、運動・スポーツを行っていない人が県民の5割を超えています。
- 県民が生涯を通じて、それぞれの体力や目的に応じ、多様なスポーツに親しむことのできる環境づくりが求められています。

県民の運動・スポーツ実施状況



資料：広報課「県政世論調査」

スポーツ振興に望むこと



資料：広報課「県政世論調査」(平成19年度)

施策の展開

生涯スポーツの振興 (☞p.195)

より多くの県民が、スポーツに親しむことができるよう、参加機会の充実を図るとともに、スポーツ施設の基盤整備を進めます。

- スポーツへの参加機会の充実
- スポーツ施設の整備

競技スポーツの振興 (☞p.195)

県民のスポーツに対する関心とスポーツ活動への参加意欲を高めるため、全国大会等で活躍が期待される競技者を育成・強化し、競技力の向上を図ります。

- 競技大会の開催
- 競技力の向上

達成目標

指標種別	指標名	5年前 (平成14年度)	現状	目標 (平成24年度)	備考
県民	運動・スポーツ実施率	—	31.8% (H19年度)	50.0%	週1日以上運動・スポーツをする成人の割合(県政世論調査) [国のスポーツ振興基本計画を参考に設定]
県民	国民体育大会総合 (天皇杯)順位	15位	23位 (H19年度)	10位台	国民体育大会における本県獲得 点全国順位
県民	国民体育大会入賞者 数(少年)・全国高校 総体入賞者数・全国 中学校体育大会入賞 者数	165人 (団体)	135人 (団体) (H18年度)	165人 (団体)	全国大会における8位以上の入賞数



全国スポーツ・レクリエーション祭(インディアカ競技)



県民スポーツフェスティバル



国民体育大会冬季大会スケート競技会
(長野かがやき国体)



国民体育大会冬季大会スキー競技会(開会式)